

# 長畝ふるさと通信

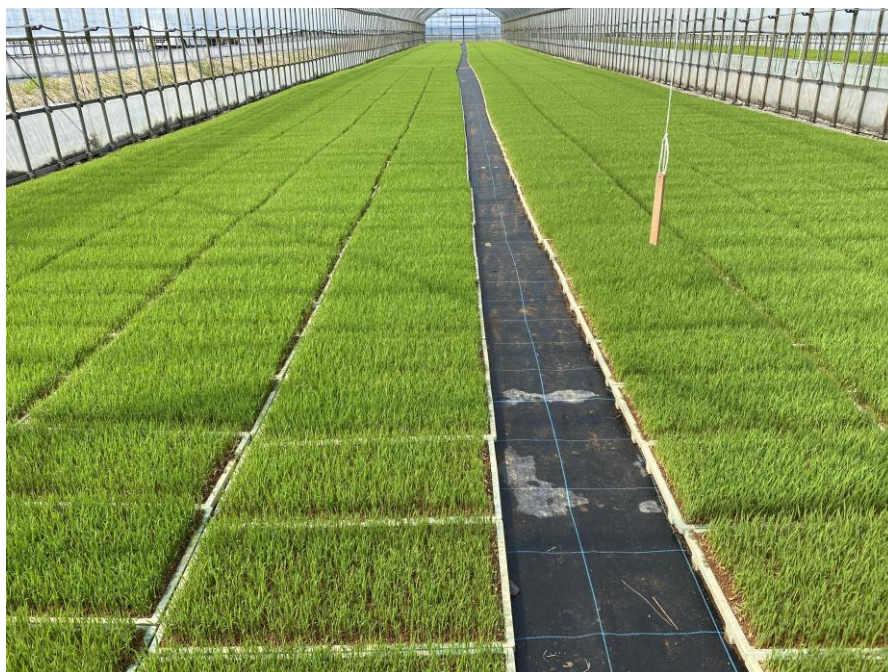


【2022年4月号】

## ■ 播種は過去最高の19,700箱

4月7日から延べ9回に渡って合計、過去最多の19,700箱を播種しました(最終播種日は5月4日)。組合で必要な苗は約15,000箱ですが、前年度の赤字決算を踏まえて事前にJAに営業をかけ4,000

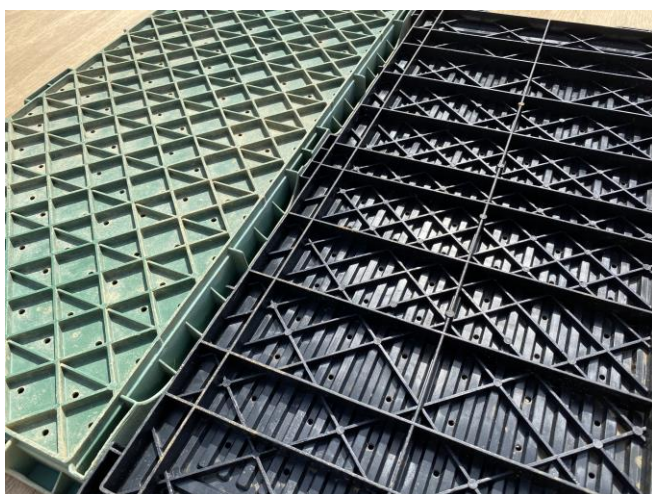
箱強の外注を頂いたのです。組合の育苗ハウスは最大18,000箱しか入らないので、そのうちの1棟は2回転させます。つまり、田植えをして空いたハウスに再度播種するということで、人手も手間もかかるのですが、1箱1,000円と



して……ということですが。

● 1棟のハウスに約2,200箱入ります

## ■ こんなところでも経費節減



苗箱のサイズは縦30センチ、横60センチの統一規格です。緑色の箱はもう40年も使い続けている従来型の苗箱。黒いものは今年試験的に購入したもので、裏をよく見ると「上げ底」になっています。通常、苗箱には肥料入りの床土を約3kg敷き、たっぷりの散水をしてその上に種もみを140g程度撒いて、さらに覆土を約1.5kgかけると総重量は約7.5kgになりますが、この黒箱は上げ底のせいで1センチ分の土を減ら

すため床土が少なくて済み、総重量も約5kgと軽くなるのです。メーカーの説明では1箱当たりの

コストが30円程安くなり、おまけに軽いので女性でも楽に運べると。また、箱の内側には溝があり、空気が循環して根張りの良い健苗に仕上がると、まさに一石二鳥だという。同じ日に播種して比較してみたところ、従来型(左)に比べて新型(右)の方が根が長く、太いようです。あとは田植機との相性が問題ですが、これをクリアすれば新戦力として本格採用しようと考えています。それにしても、緑箱様におかれましては、ポディーは油がすっかり落ちてカサカサ状態、40年もの長きにわたり活躍していただき、ありがとうございました。先日、世界最高齢の119歳のおばあさまが亡くなったとニュースで拝見しましたが、生前のインタビューで「こんだけ美味しいもん食べたら死ぬ気がせん」とおっしゃっていたのが衝撃的でした。ボクも119歳まで頑張るにはまだ折り返し地点にも立てませんが、少しでも新しい時代を見てやろうと思っています。(美味しいもの食べて…)



## ■ ウクライナに思いを寄せながら

4月に入ると佐渡でもコロナ感染者が続出し、恒例の祭りを取りやめにする集落も出てきました。長畝鬼太鼓保存会は今年も「コロナなんかには負けない！祭りを絶やしてはいけない！」と例年通りの開催となりました。とはいえ地域の小学校でも学級閉鎖になったりしたので、門付の際の飲食は極力遠慮して、感染対策に気を付けながらも楽しく祭りを行いました。早朝5時に神社に集合し支度を終え、祭壇の前でお神酒を頂きながら今年の豊作、無病息災を祈ります。神様の使者となった白と黒の鬼は太鼓に合わせて舞いながら集落を一軒、一軒練り歩きます。いつもならここで



お酒やご馳走を頂き、気が狂ってしまうところですが、今年は飲食自粛ということで、少しだけ寂しい祭りとなりました。お昼休憩後にウクライナの国旗を太鼓に張り付けて、神様の使者から「一日も早い戦争終結」を願って舞って頂きました。今、ボクたちにできることはこんなことくらいですが、思いが届くと良いと思います。



## ■ 田植えは4月30日からの予定です

今年の田植は4月30日から行います。高齢化に伴って田んぼ作業に出てくれる組合員も激減してきたので、春から2名の専従職員を新採用しました(新採用と言っても二人とも40代のおっさんですけど・・・やっぱり若者は農業に関心がないのか、それともうちの給料が安いのか・・・)。

昨年に次ぎ、8条植えの田植機も購入しました(400万円です)。何事も継続していくためには経費が掛かると実感します。コロナでガタガタになった経済を立て直すのも相当な経費が掛かることでしょう。一体、誰が負担するのだろうか。アメリカがウクライナへ武器など8億ドル(日本円にして1,000億円らしい)を追加支援するそうだ。一体、誰が負担するのだろうか。儲かるのは軍需産業ばかり。これで平和と言えるのか～疑問だらけです。

5月はタケノコの季節です。うちの裏の畑にもたくさんのタケノコが生え、すでに取り遅れて「竹」になりかけたヤツも(写真)。これからしばらくは毎日、タケノコご飯に、タケノコ味噌汁、タケノコの煮つけ、タケノコの天ぷら・・・タケノコ地獄です。でも、考え方によっては幸せな地獄ですなあ。

